

平成23年度 いいたて在宅介護支援センター  
(指定居宅介護支援事業所) 事業報告書

1. 基本方針について

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、ご利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成し、プランに添ったサービスが提供されるように、ご本人並びに家族は勿論の事、多種多様な事業者や関係機関と調整し、在宅での生活が継続できるような支援を行ってきた。

(1) 信頼を得るについて

ケアプランを立案するにあたり、ご利用者とそのご家族の方との信頼関係を得るためにコミュニケーションを密にして、避難先のサービス事業者とも連携を図り、迅速な対応を目指してきた。

(2) 課題を正確に捉えるについて

生活環境が変わった中で、ご利用者・ご家族の方の抱える心配ごとや不安な点を正確に捉えるため、今後予測されうる課題についても、適時得た情報を元に事前検討を行ってきた。

(3) 情報提供について

ご利用者・ご家族の方が必要としている介護保険制度情報などを適切に提供出来る様に、利用できるサービスなどの避難先の地域資源活用等についても説明を行ってきた。

在宅介護を行ってきたご利用者で、避難にあたり止むを得ず施設への避難を希望される方々に対して、行政関係機関と連携を図りスムーズな避難が可能になるよう情報提供を行ってきた。

(4) モニタリングを行うについて

モニタリングを行い常に状況を把握し、状態にあった支援が提供できるよう努めてきた。モニタリング訪問以外にも、出来る限りの相談や状況確認などの為に、自宅への訪問や電話での状況確認を行ってきた。

(5) ご利用者の立場に立つについて

常にご利用者とその家族の立場に立ち対応することに努めてきた。

『評価と課題』

モニタリング訪問の他に、電話等により身体状況の変化や生活状況及び家族の介護負担の確認を行い適切な対応ができるように努めてきました。また、サービス提供事業者や関係機関との連絡体制を徹底し、情報の共有を図ってきた。

避難先が広範囲となり、多方面に避難しているご利用者に対応している状況ではあるが、今後は、活動範囲も検討しなくては、時間的なロスが生じ、全体的なサービス低下が懸念される。

## 2. 具体的な施策について

### 《ケアマネジメントの充実》

#### (1) アセスメント（課題分析）について

ご利用者及びご家族の方の意向等を把握し、解決すべき課題や生活行為等に対する可能性を抽出し、それらに基づく目標を導き出してきた。また、得られた情報はケアマネジメントの中核とし、状態像を十分に把握してきた。

#### (2) サービス担当者会議（ケアカンファレンス）について

ご利用者及びご家族の方、サービス事業所が参加することにより、生活への要望や課題を直接会って確認することで、その思いをチーム全員が共有できると共に、ご利用される側が「支援チーム」に支えられているという実感をもてるようにしてきた。

#### (3) モニタリング（サービス実施状況の把握及び評価）について

モニタリングは、ご利用者に対する継続的なアセスメントでもあり、ご利用者や家族の要望や苦情を、口に出せるような関係を築いていくと共に、サービスの実施状況も確認してきた。

#### (4) 居宅サービス計画の見直し（再アセスメント）について

モニタリングの結果から、ケアプラン変更の必要性が生じたら、その内容を確認し利用者の状態の変化及びニーズを把握し再アセスメントを行い、居宅サービス計画を見直し作成してきた。

#### (5) 給付管理について

サービス提供事業者からサービスの実績報告を受け、内容を確認し「給付管理票」を作成し翌月10日までに県の国民健康保険団体連合会に提出してきた。

給付管理請求一覧

月	平成22年度		平成23年度	
	件数	金額	件数	金額
4	114	1,513,000	72	966,000
5	118	1,536,000	67	901,150
6	117	1,486,500	47	629,300
7	120	1,562,330	57	773,850
8	121	1,633,750	58	763,900
9	129	1,559,150	56	729,350
10	123	1,614,280	62	814,700
11	112	1,373,800	62	809,150
12	105	1,440,430	61	794,200
1	102	1,338,600	61	787,200
2	100	1,340,450	58	755,800
3	94	1,252,600	60	779,250
合計	1,355	17,650,890	721	9,513,850

### 『評価と課題』

サービス提供事業所との連絡調整を事前に行いサービス担当者会議を開催しているものの、ご利用者及び家族が避難していることから、落ち着いた環境での会議が困難となっています。

また、ショートステイの利用希望においては、県内の各入所施設とも避難者を受け入れていることから、ショート利用が非常に困難となっている。特に、相馬地方においては、施設数も限られ、地元の避難者を受け入れ定員を超えて活動を行っている状況であり、シ

ョートの利用希望があっても対応しきれない状態にあります。

しかしながら、望まれるサービスを出来るだけ叶えられるよう、今後もサービス事業所との連絡調整を行い、ご利用者や家族の方が安心して相談でき、サービス利用に反映できるように努力して行きたいと思えます。

### 3. 重点事業目標について

#### (1) 利用者に関する情報・サービス提供などの情報共有のための会議の開催について

- ・ 震災と原発事故後の避難先への訪問活動に追われ、定期的な会議の開催はできなかったが、随時の話し合いや資料作成により情報共有を図った。

##### 『評価と課題』

- ・ 遠距離の訪問活動に追われ、定期的な情報共有のための会議をあまり開催できなかったことについては、避難による業務多忙とはいえ、素直に反省すべきところであった。今後、より効率的な訪問活動を行うことによって、時間の確保を行いより良い情報共有のための会議の開催を図って行きたいと感じています。

#### (2) 24 時間相談の出来る体制の確保

- ・ 介護支援専門員2名其々が、携帯電話を 24 時間携帯し、連絡先を利用者及び家族は勿論のことサービス提供事業所にも周知し、いつでも連絡相談が出来る体制を確保してきた。

##### 『評価と課題』

- ・ 24 時間の携帯電話所持ということで相談対応には十分であったと思われる。但し、相談の内容によっては、迅速な対応が困難なものがあるうえに、相談者自身被害者意識が強くなってしまい、自己努力が見られなくなっているケースも多くなってきている。今後、自己解決方法などへの支援も必要であると感じられる。

#### (3) サービス利用に関するアンケート調査による問題点や改善点の検証について

- ・ 実施できなかった。

##### 『評価と課題』

- ・ 条件が違った避難中という現状の中で、アンケート調査は困難であると思われる。

#### (4) 申請代行について

- ① 村の家族介護用品申請の説明と申請代行
- ② 住宅改修に関する説明と関係事業所との連絡調整並びに住宅改修費用支給申請代行
- ③ 特定福祉用具対象商品の説明と介護保険福祉用具購入費支給申請の代行
- ④ 要介護認定期間の把握と更新申請の確認及び必要に応じた申請代行

### 4. 介護支援専門員の資質・専門性の向上について

#### (1) 専門知識及び技術向上に努めてきた。

- ・ 主任介護支援専門員研修（郡山市） 1名参加
- ・ 介護認定調査員研修（福島市） 2名参加

#### (2) 不満や苦情があれば、迅速かつ適切な対応が図れるように努めてきた。

- ・ 訪問時本人や家族の満足や不満等について確認し、サービス事業所へ報告や改善を促しながら、質の向上に努めてきた。

- (3) 秘密保持厳守、及び個人情報の取り扱いを適正に行ってきた。
- ・ 個人情報等の取り扱いについて慎重に対応するように努めてきた。
- (4) 困難事例ケース検討、及び新規ケースの情報を共有することで、事業所全体で依頼ケースのケアに取り組んできた。
- ・ 担当者が詳細な情報を報告し、情報を共有出来るように努めてきた。

『評価と課題』

研修会に積極的に参加し、情報の収集と周知徹底を行ってきた。

困難事例ケースについては、その都度相談し、地域包括支援センターに繋げ同行訪問を行いながら対応を行ってきた。しかし、困難事例ケースは、介護保険上の問題だけでなく、医療や家庭環境も含めて困難なケースが多く、ご利用者自身が避難先の環境に対応が出来なくなっていることが多くなってきています。

## 5. 在宅介護への支援について

- (1) 介護保険制度及びサービス内容の周知を行ってきた。
- ・ サービス利用については、ご利用者のニーズに合わせ、それぞれの避難先で希望するサービスを提供できるよう努力してきた。
- (2) 介護方法及び社会資源の利用についての周知を行ってきた。
- ・ 紙おむつ、パット等の排泄に関わるアドバイスなど行ってきました。避難先で利用可能な社会資源について、その都度説明を行ってきた。
- (3) 東京電力第一原発の事故に伴う、避難後の所在の確認とサービスの調整を行ってきた。
- ・ ご利用者自身の避難先での生活状況を確認し、生活状況からサービスの必要性を確認しながら、避難先であってもサービスが継続できるよう、県内外の地域包括支援センターや居宅支援事業所・サービス提供事業所と連携を図ってきた。

『評価と課題』

この度の震災時の対応について、全く想像もつかない状況の中ではあったものの、比較的スムーズな実態把握が可能であった。しかし、全村避難に伴うご利用者自身の避難先の確保と、避難後のサービス利用については、これまで経験したこともなく、関係機関との連携が益々必要となっていくと考えられ、ご利用者やその家族の不安を与えることの無いように、相談援助を行う必要がある。

## 6. 各関係機関との連携の強化

- (1) 地域包括支援センターを始め、各関係機関との連携を密にし、ニーズに沿ったケアマネジメントが行えるよう努めてきた。
- ・ 各市町村関係機関との連携を行いながら、ケアマネジメントに反映出来る様に努めてきた。

『評価と課題』

・ 社会資源を十分に把握することが出来ない中で、最低限本人や家族に負担をかけることが無いように、避難先の各種関係機関と連携を図って支援できたことについては、十分評価に値すると思います。課題としては、今後の生活環境や身体機能等の変化に対し、いかに早く気付き対応できるかが必要になってくるものと思われる。

《避難等に伴いご協力頂いている県内外の各種事業所》（敬称省略・順不同）

1) 在宅介護支援関連

① 福祉用具関連事業所

エヌジェイアイケアヘルス福島店、ニチケアセンター南福島、(株)ファミリーケア（福島市）、(株)昭和総合サービス（郡山市）、(株)ハッピーケア、共和木工所、(株)すざ家具店（南相馬市）、(株)アルプスビジネスクリエーション（相馬市）、(有)石井薬局（川俣町）、トランジー(株)（東京都）

② 訪問看護事業所

訪問看護やまなみステーション、訪問看護ステーションすかわ、訪問看護ステーション松陵訪問看護ステーションしみずサテライトせのうえ（福島市）、掛田訪問看護ステーション、あぶくま訪問看護ステーション（伊達市）、リハビリ訪問看護ステーションつばさ（相馬市）、

③ 訪問介護事業所

北信ホームヘルプセンター、介護ステーションつくし、訪問介護事業所ゴールデンスタッフ福島（福島市）、福寿園ヘルパーステーション、ニチケアセンター原町（南相馬市）、ケアステーションやわらぎ（伊達市）、ニチケアセンター宇多の郷（相馬市）、田村市東部訪問介護事業所（田村市）、つばさ訪問介護事業所（猪苗代町）

④ 訪問入浴事業所

(有)キュービット介護サービス、介護ステーションつくし（福島市）

⑤ 通所リハビリ事業所

(医)すずき医院デイケア、通所リハビリステーションろくまんぼう（伊達市）、デイケア松陵（福島市）、通所リハビリテーションめがみ（川俣町）

⑥ 通所介護事業所

老人デイサービスセンターはなみずき、北信デイサービスセンターすこやか、デイサービスセンターなごみの郷、デイサービスあづま、ほうらいデイサービスセンター、デイサービスセンタースマイル飯坂、ケアセンターしのぶ台、フクチャンち通所介護事業所、リハビリセンター虹（福島市）、ニチケアセンター宇多の郷、相馬福祉会デイサービスセンター（相馬市）、福寿園デイサービスセンター、デイサービスステーションスマイル（南相馬市）、保原デイサービスセンター（伊達市）、まごころケアサービス（二本松市）、常業指定通所介護事業所（田村市）、デイサービスセンター夢（いわき市）、掛田中央内科かけだの家、掛田中央内科新田の家、掛田中央内科よりどころ（伊達市）、南東北川俣デイサービスセンター（川俣町）、デイサービスセンター咲楽の里（猪苗代町）、憩のホーム学、デイサービスかぞく（栃木県）

⑦ 短期入所事業所（特別養護老人ホーム）

みず和の郷、なごみの郷、はなしのぶ（福島市）、福寿園（南相馬市）、相馬ホーム（相馬市）孝の郷（伊達市）、南東北川俣シルクロード館、川俣ホーム（川俣町）、咲楽の里、いなわしろホーム（猪苗代町）

⑧ 短期入所事業所（老人保健施設）

桑折聖・オリーブの郷（桑折町）

⑨ 居宅療養管理指導

医療法人すずきクリニック、ファーマライズ薬局大町店（福島市）

⑩ 居宅支援事業所

アースサポート山形（山形県）、アサヒクリーン在宅介護センターにいざ（埼玉県）、NPO法人えがお（栃木県）、陽光園指定居宅介護支援事業所（福島市）

2) 入所施設関連（避難時に家族と同じ避難先での生活が困難と思われる、要介護者を引き受けて頂いた各種施設等）

① 特別養護老人ホーム

はなしのぶ、みず和の郷（福島市）、小峰苑（白河市）、南東北川俣シルクロード館（川俣町）、袖ヶ浦菜の花苑（千葉県）、第二常盤園（宮城県） 8名が避難

② 老人保健施設

ケアフォーラムあづま、エルダーランド、聖・オリーブの郷、聖・輝きの郷、生愛ガーデン、ケアタウンひまわり、敬愛シニアガーデン卸町、リハビリ南東北福島、ホリスティカかまた（福島市）、桃花林（伊達市）、厚寿園（南相馬市）、聖・オリーブの郷（桑折町）、リハビリ南東北川俣 28名が避難

③ 医療機関等関連施設

掛田中央内科系列（伊達市） 15名が避難